

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡市心身障害児福祉センター「いこいの家」		
課名	障害福祉企画課		
指定管理者名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会		
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和7年6月2日（月）		
評価委員 ※（ ）内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 寺田 和弘（障害福祉企画課長） ②委員 久保田哲史（こども家庭福祉課課長） ③〃 岡本 恵（地域リハビリテーション推進センター所長） ④〃 前島 恵美（静岡市静岡手をつなぐ育成会副会長） ⑤〃 牧野 善裕（静岡市重症心身障害児（者）を守る会会長）		
評価点 (各委員平均点)	86.2点	評価	A・ B ・C・D・E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	<p>仕様書に従い、子どもへの手厚い支援が実施されている。また、保育との並行利用の希望等、市民ニーズへのきめ細かな対応がなされている。保護者からの意見等にも、迅速に対応していることも評価できる。</p> <p>通園バスを増やし、児童発達支援センターがない清水区の子どもへの支援を積極的に実施している点について、指定管理施設としての役割を果たしていると感じられる。</p> <p>全体的に利用者満足度が高く、直ちに改善が必要な状況ではないが、サービス評価に対する指定管理者としての考えや対応方針についても明示し、更に質の高いサービスを提供されたい。</p> <p>インクルーシブ保育の実現や施設入所希望への対応等、本市を含め全国的な課題となっている点について、指定管理者と連携しながら施策を進めていきたい。</p>		

総合評価結果総括表

施設 の 名 称 [静岡市中心身障害児福祉センター「いこいの家」]

課名 [障害福祉企画課]

指定管理者名 [社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会]

	A 評価 委員	B 評価 委員	C 評価 委員	D 評価 委員	E 評価 委員	平均 点
1 履行状況の確認	【配点50点】					
(1) 事業の円滑な実施						
(ア) 事業計画書等に示された事業が予定どおり、円滑に実施された	4	5	5	4	4	4.4
(イ) 仕様書に掲載されている5年後の目標を達成しているか。 ① 利用者満足度（通わせてよかったと思う人の割合） 90% ② 保育所等訪問支援の契約件数 15件以上 ③ 相談支援対応応援件数（基本相談・障害児支援利用計画・モニタリング） 365件以上（うち基本相談190件以上） ・H30 ①98% ②10件 ③365件（うち基本相談215件） ・H31 ①98% ②12件 ③355件（うち基本相談192件）	2	4	5	4	3	3.6
(ウ) 事務事故が発生していないか。	4	5	5	5	4	4.6
(2) 適正な人員配置						
(ア) 専門的な資格を有した人員について、適切な人事配置が行われた	4	5	4	4	5	4.4
(イ) 施設運営上必要となる職員の教育・研修が計画的に実施された	4	5	4	4	4	4.2
(3) 施設の適切な保守・管理・点検・清掃等						
(ア) 専門技能を有した第三者への業務委託等を実施し、施設・設備の保守・管理・点検・清掃等が適切に実施された	4	5	4	3	4	4.0
(イ) 緊急時・事故発生時において迅速な対応と市への連絡・報告がなされた	3	5	5	4	4	4.2
(ウ) マニュアル等を整備し、適切な防災・救急訓練等が定期的に行われた	4	5	4	3	4	4.0
(4) 会計・庶務事務等						
(ア) 健康診断の実施等、利用者の健康把握に配慮し、また個人情報の保護が適正に行われた	4	5	5	4	4	4.4
(イ) 適切な経理がされており、健全な運営がなされ	5	5	5	4	4	4.6

た						
小 計	38	49	46	39	40	42.4
2 指定管理者の創意工夫 【配点15点】						
(ア) 指定管理者のもつ専門性・技術・ネットワーク等を活かした事業が実施された	5	4	5	4	5	4.6
(イ) 質の向上に向けた取組が積極的に行われた	4	5	4	4	4	4.2
(ウ) ボランティア等の受入れに対する姿勢や体制を確立した	5	5	5	4	4	4.6
小 計	14	14	14	12	13	13.4
3 市民（利用者）のサービスの向上 【配点15点】						
(ア) 利用者の満足度調査において高い評価を受けた	5	5	5	5	5	5.0
(イ) 利用者満足の向上のため、専門的知識、技能習得等職員の資質向上がなされた	4	5	4	4	5	4.4
(ウ) 利用者及び保護者からの意見を積極的に収集する体制を構築し、寄せられた意見等の対応が適切になされた	4	4	4	4	4	4.0
小 計	13	14	13	13	14	13.4
4 施設固有の評価項目 【配点20点】						
(ア) 地域と利用者、また利用者同士の交流を図る等、開かれた施設運営が行われた	4	3	5	4	5	4.2
(イ) 利用者にとってサービスの向上（給食の調理方法の工夫、送迎サービスの増等）を図る取組を積極的に行った	4	4	5	4	4	4.2
(ウ) 施設利用者との良好な関係の保持のための取組が積極的に行った	4	4	5	4	4	4.2
(エ) 定員に対する利用者の現状を把握し、利用率の向上がなされた	4	5	5	3	5	4.4
小 計	16	16	20	15	18	17.0
合 計	81	93	93	79	85	86.2

※ 評価委員名は記載しない

※ 平均点は、少数点以下第2位を四捨五入する。

各評価委員の所見のまとめ（※各評価委員の所見をそのまま記載してください。）

<p>【A評価委員】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 子どもへの支援は、手厚くやられている。評価したい。・ 事故やケガの時の対応が、自己完結でやりすぎている。医療機関への搬送を。・ 実施体制図の人員の内訳が合わない（すべて40だが、39や41がある）・ 子どもの人権に配慮した支援を、虐待防止委員会の運営状況は？・ 医ケア児や強行児の受入れを仕様書にあるが、実績（人数、程度）がない。・ サービス評価の結果はあるが、それに対するコメント、対応方針がない・ ヒヤリハット・苦情の項目はあるが分析、対応がない。・ 事故報告、虐待についての報告がほしい（児相に報告していたとしても）・ 医ケア児や強行児の受入れを仕様書にあるが、実績値がない。・ 計画相談の実績はあるが、いこいの利用者の相談が多そうで、利用児以外の相談がどの程度あるか教えてほしい・ 市内で老舗の児童発達支援センターとしての役割を担う意識が認められない。清水の負担増はあるが。・ 関係機関との連携の中で、自立支援協議会とその専門部会（こども部会）とのかかわりの位置づけが、薄い（お客さんの）
<p>【B評価委員】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 研修に熱心に取り組んでいる。・ コロナ禍でできなくなっていたことをちゃんと前の形に近づけて行なっている（父親参観など）・ 利用者満足度が高評価であることは喜ばしいが、それに甘んずることなく運営してほしい・ 活かしていることは素晴らしい。よい話がきけるはずなので保ゴ者の参加を積極的に呼びかけたい・ 保ゴ者からの意見・苦情にすみやかに対応する姿勢はとてもいい。・ 意見箱などの工夫もあるが、やはりなかなか勇気がなく伝えられない方もいることも忘れずをお願いしたい。・ 城東の施設の交流まつりがなくなってしまったことは残念。いこいの家をアピールするよい機会であった。・ インクルーシブ教育を目指す時代。感染症の心配もあるが定型発達子ども達とすごす機会を（なるべく定期的に）作ってほしい。・ 全体的に信頼できる運営をされていて、ありがたく思います。今後もよろしく願います。
<p>【C評価委員】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 便利ツールとして、アプリを導入し、保ゴ者の利便性、園との円滑なコミュニケーションの推進が図られている。・ 清水区をカバーするため、通園バスの1台「増」は、指定管理者の努力として、評価する。・ 地域の商店、学生（実習生）、中学生職場体験など、ひらかれた施設運営がなされている。
<p>【D評価委員】</p>

- ・ 専門性を高めるための教育・研修が準備され、参加するための配慮もできている。
- ・ れいわ、キラリ等との協力体制があることは強みであると感じた。小学校進学等についても教育委員会と連携があり個々の状況に応じた対応ができている。
- ・ 3 (イ) (ウ) 利用保ゴ者の気持ちの受けとめや、前向きになることへの支援ができているのだと思う。
- ・ 4 (イ) 個々のニーズに対応している。アプリの導入は保ゴ者、職員にとっても良いと
りくみだと思う。
- ・ 4 (エ) 子どもにとってどうかは検討が必要か？
- ・ こども、保護者それぞれの支援が高い専門性のなかで実施されていると思う。
- ・ 入所希望ニーズに対して、どう対応 (入所の判定方法など) していくのかは市としても
課題ではないかと感じた。

【E評価委員】

- ・ 1 (2) (ア) 人員配置について法人 (医療機関) のメリットを生かしている。専門性
の確保が高いレベル。
- ・ 1 (1) (イ) ②保育所等訪問支援契約件数15件以上目標に対し、11件程度のため「3
点」。
- ・ 2 (ア) 地域の支援機関と積極的なかわり 例：医ケアコーディネーターとの連携に
よる入学準備。法人内所属専門職 (作業療法士による研修)。
- ・ 3 (イ) 外部研修参加に加え、公認心理士による面談研修
- ・ 4 (ア) 保護者同士のつながりつくり職員が協力
- ・ 4 (エ) 並行利用者希望増。きめ細かく対応している。市民ニーズきめ細かく対応。

評価委員会としての意見

- ・ 子どもへの支援が手厚くなされていると評価する。また、並行利用の希望等、市民ニ
ーズにきめ細かく対応している。清水区をカバーするために通園バスを増やしたことは、指
定管理者の努力として評価する。
- ・ 保護者からの意見や苦情に速やかに対応している姿勢を評価する。
- ・ サービス評価に対するコメントや対応方針を示されたい。利用者満足度が高評価である
ことは喜ばしいが、それに甘んずることなく運営してほしい。
- ・ インクルーシブ保育を目指す時代に即して、定型発達の子どもたちと過ごす機会をなる
べく定期的に作ることを求める。
- ・ 入所希望ニーズに対し、どういった対応をしていくのかが課題と感じる。施設入所は、
指定管理施設のみならず、市の課題でもある。